

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-894-1781
090-9602-0700

諫早干拓調整池

長崎県議 事実誤認

6月27日、佐賀地方裁判所は、国に対し諫早干拓潮受堤防を5年間開放するよう命じた。この判決は、圧倒的な国民世論に受け入れられ、有明海沿岸の佐賀、福岡、熊本の各県知事・県議会も直ちに賛同した。

これに対し、唯一、開門反対の立場を取っているのが長崎県知事・県議会である。開門に反対する理由として、開門すると調整池に貯まった汚濁水が有明海に流れ出し、有明海環境が悪化し漁業被害が出るという長崎県議らの声を度々耳にする。

これは、後述するように調整池の水質が年々悪化し改善の見通しが立っていないことを前提とするものだが、本当に開門すると有明海環境に悪影響を与えるのだろうか。

ここに大きな誤解があると言わざるを得ない。すなわち、調整池は本明川その他の河川や近隣の生活排水、干拓地からの排水が不断に貯まり続けており、

調整池の水位をマイナス1mに保つため、常に南北両排水門と中央の排水ポンプの3ヶ所から排水しなければならぬ。つまり、現在も南北の排水門は開放され調整池の汚濁水が定期的に有明海に排出されているのである。長崎県議らは、このごく当たり前の事実についての認識すら欠いている。

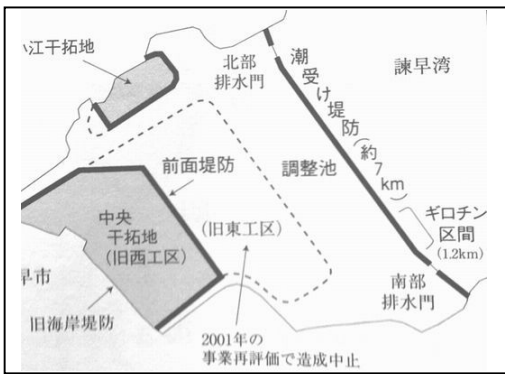
開門で排水も浄化

では、佐賀地裁が開門を命じた意義はどこにあるのか。それは、現状の開門操作は調整池の水を一方的に有明海に排出するだけだが、これを有明海の海水

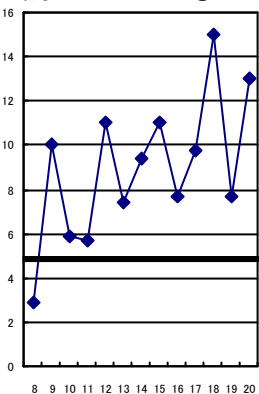
を調整池に導入する方向にも運用し、調整池と有明海の双方で海水と淡水の交換を行う点にある。つまり海水を調整池に導入する点に意義があるのである。海水を調整池に導入することで、調整池の水質は飛躍的に改善する(アオコも海水導入により死滅する)。その結果、調整池からは海水によって浄化された水が排出することとなり、有明海環境への負荷も少なくなるのである。

調整池水質悪化

農水省が発表した調整池の化学的酸素要求量COD(7月10日頃(平成8年のみ3月))によると平成9年の潮受堤防締め切り以降、一度も水質の環境基準5mg/lをクリアしておらず、逆に年々悪化していることが分かる(B1地点・他の地点も同様)。早急に開門し調整池内に海水を導入しないと延々と汚濁水を有明海に垂れ流し続けることとなる。



調整池COD(mg/l)



麻生・石破には期待できん

そんな時間ない

麻生 回答拒否

自民党総裁候補に対し、有明海再生に関する公開質問状を出し、小池氏と与謝野氏からしか回答がなかった問題について、原告団・弁護団は、「諫早干拓問題の現状認識が低すぎる。明確なビジョンが示されていないのは政治力の欠如だ」と厳しく批判した。小池氏は開門に前向きな回答をし、与謝野氏は有明海再生に言及するも開門には触れなかった。

麻生新総裁は、「そんな時間はない」と質問の内容も確認しないまま回答を拒否した。

漁業者らは、麻生氏が首相になって有明海の再生は期待できない、回答をしなければ石破氏には漁業者の気持ち分かるはずない農水大臣になって欲しいと憤りを隠せないでいる。